

平成元年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
——農林統計——

平成 2 年 1 月

国際協力事業団
研修事業部

研 管
J R
90-005

平成元年度
帰国研修員フォローアップチーム報告書
——農林統計——

JICA LIBRARY



1080963(0)

2010

平成2年1月

国際協力事業団
研修事業部



はじめに

集団研修「農林統計コース」は、開発途上国において農林統計の分野に携わる中堅技術者を対象とし、日本の農林統計の基礎知識を習得させるとともに我が国における農林統計作成の現状を紹介し、各国の農林統計の実情に則した農林統計技術の導入およびその定着の方法についての取り組み方を考察する機会を与えるべく、昭和42年度以来実施されてきている。その受入れ研修員数は47か国309人となっている。

この間、本研修コースの運営にあたっては、研修員の要望をふまえて順次研修カリキュラムの改善を行い、途上国の当該分野におけるニーズを満たすべく努力を重ねてきた。

今般、こうした研修カリキュラムに係る様々な問題点・要望について、背景となっている各国の固有の事情を調査するべく、帰国研修員および関係者を対象に、平成元年11月25日から12月12日までの18日間、ケニア、エジプトにフォローアップチームを次の3項目の調査を目的として派遣した。

- ① 我が国で実施した研修の評価
- ② 当該研修分野に係る当該国の現状、技術的問題点およびニーズの把握
- ③ 最新の技術情報の紹介および技術指導

本報告書は、上記フォローアップにおける調査結果を取纏めたものであり、当該分野における各国の現状、帰国研修員の動向、彼等が抱えている諸問題および研修に係る要望事項等について関係各位の更に深いご理解を頂くとともに、今後の研修コース運営の改善に資することになれば幸いである。

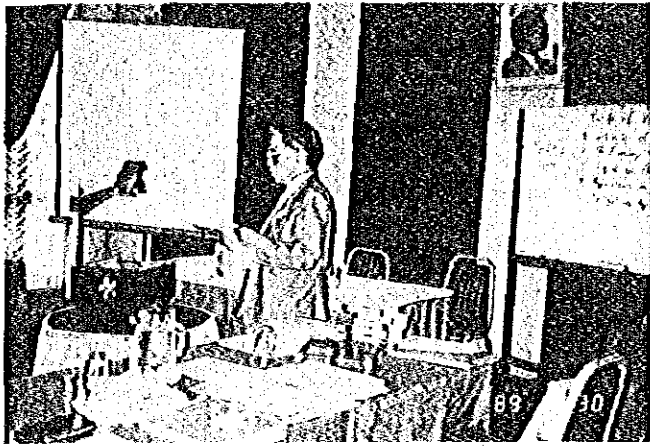
なお、本件調査実施につき、ご協力を賜った外務省、農林水産省、ならびに現地において数々のご指導とご協力を賜ったケニア、エジプト日本国大使館および関係機関各位に深甚なる謝意を表する次第である。

平成2年1月

研修事業部

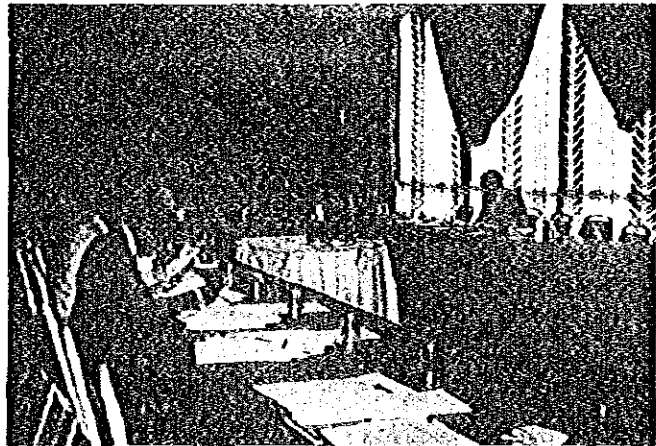
部長 御手洗 章弘

ケニア関係



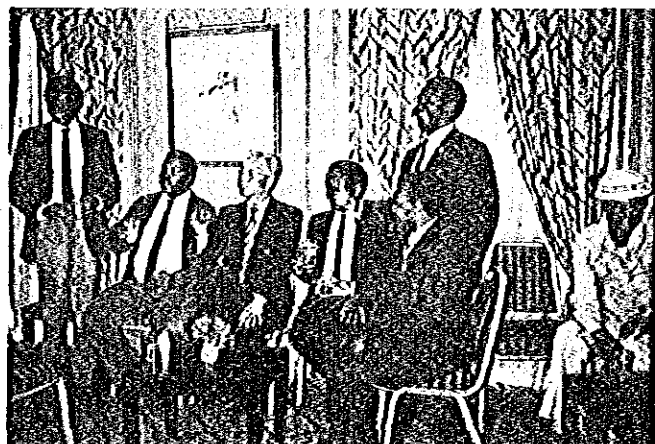
セミナー開会の辞
(於ナイロビ・ヒルトンホテル)

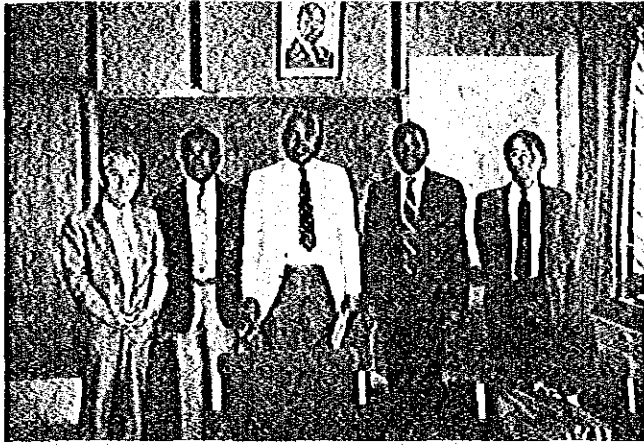
セミナー時の討論風景



THIKA地方卸売市場で物価調査の風景

懇親会風景（国際協力事業団
ケニア事務局長を囲んで）



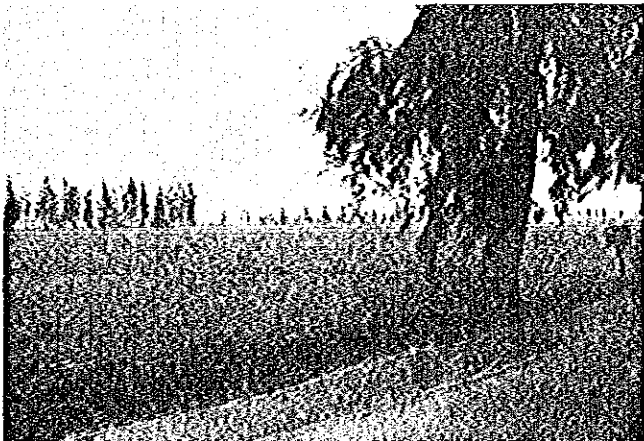


農業省表敬後の記念撮影

中央統計局 THIKA OFFICE
表敬後の記念撮影



エジプト関係



ナイル川流域

比較的基盤整備が行われており、冬季で小麦及びクローバーが作付されていた。手前は灌漑水溝

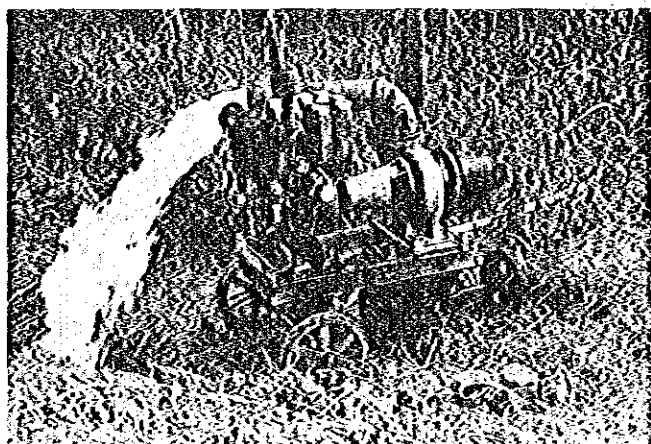
農業センサス開始前に於ける調査員の指導会（於 SIMBILLAWEIN 地方事務所）手前は農業経済局センサス部長





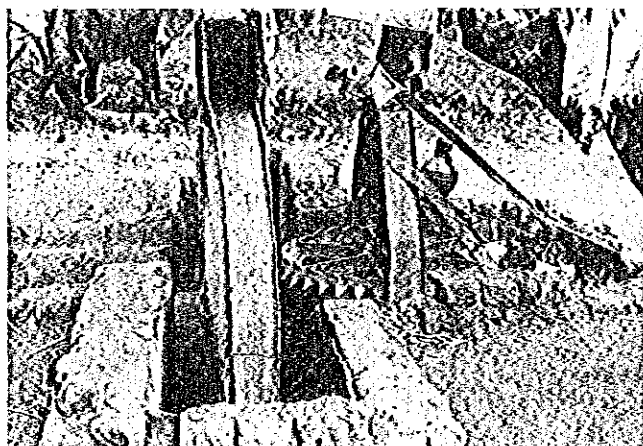
農業センサスの調査員による実習風景

地方事務所の職員との記念撮影



現在の灌漑揚水機 動力は発動機

昔の灌漑揚水機（現在でも一部で使用）
動力は畜力



目 次

I	フォローアップ調査団派遣の概要	1
1.	農林統計コースの概要について	1
2.	派遣の目的	1
3.	調査団の構成	1
4.	派遣国及び派遣期間	2
5.	行程及び指導・調査内容	2
6.	主要面会者リスト(帰国研修員及びセミナー参加者は別掲)ケニア関係	3
7.	主要面会者リスト(帰国研修員及びセミナー参加者は別掲)エジプト関係	3
II	帰国研修員の動向に関する調査結果(ケニア, エジプト編)	5
1.	対象面接者(技術協力窓口及び関係機関)	5
(1)	技術協力窓口	5
(2)	関係機関等における農林統計に対するコメント	5
(3)	農林統計コースに対する評価と要望	5
2.	帰国研修員の実態	5
3.	農林統計コースに対する帰国研修員の意向	6
4.	研修成果	6
5.	国際協力事業団, 農林水産省への要望	6
6.	Questionnaireの分析結果	6
III	セミナーの開催	10
1.	開催の目的	10
2.	セミナーの対象	10
3.	日時, 会場	10
4.	セミナープログラム	10
5.	質疑応答	10
6.	配布資料	11
IV	統計機構と統計作成の周辺事情	14
1.	ケニア編	14
(1)	一般事情	14
(2)	ケニアにおける農林統計組織と調査について	14
(3)	中央統計局THIKA OFFICE(地方事務所)訪問	15

2. エジプト編	16
(1) 一般事情	16
(2) エジプトにおける農林統計組織と調査について	16
(3) 農業省経済局SIMBILLAWEIN地方事務所訪問	17
(4) 農業省大臣官房情報・ドキュメントセンター訪問	18
V 現地調査結果の総括	19
1. 今後の集団コース運営への提言	19
VI ケニア及びエジプト政府へ提出した報告書	21
VII 参 考 資 料	39
1. 農林統計コース国別・年度別参加実績表	41
2. 平成元年度海外集団農林統計コース日程表	42
3. ケニア編	
(1) ケニア帰国研修員リスト表	47
(2) セミナー出席者名簿	48
(3) ケニアの概要	49
(ア) ケニアの概要図	
(イ) ケニアの行政区分図	
(ウ) ケニアの位置図	
(エ) 都市化図	
(オ) 労働力比率	
(4) 調査表	51
(ア) 主要農産物の収量調査票	
(イ) 市場価格調査表	
(ウ) 物価調査票	
4. エジプト編	
(1) エジプト帰国研修員リスト	56
(2) セミナー出席者名簿	58
(3) 農業省経済局及び農業経済研究所の組織図	60
(4) エジプトの概要	62
(5) 1990年センサスに関する調査員指導要領	63
(6) 1990年センサス調査票	65
(ア) 面接調査票	65
(イ) 集計表	69

第1章 フォローアップ調査団派遣の概要

1. 農林統計コースの概要について（集団研修）

農林統計コースは昭和42年に第1回が実施され、その後44年から平成元年に至るまで、毎年継続して開催され、平成元年度で第23回を数えるにいたっている。

本コースは主に開発途上国の政府職員で、農林統計作成の企画業務に従事する者を対象として、農林統計調査の基礎知識を修得させると同時に、我国における農林統計作成の現状を紹介するため、各地での現地研修を実施し、我国にて作成されている農林統計の作成趣旨及び具体的な作成手法を理解させる事に重点をおいている。

講義は、主として農林水産省統計情報部の職員及び関係機関の有職者に依頼し行われ、講義による理論のみならず、現実に根ざした農林統計理論の紹介のため、日本各地で種々の営農形態の農家を訪問しての実習による応用にも力が入れている。

研修期間は、毎年7月下旬より10月上旬までの約3か月間で、現在までの参加総数は47か国309名となっている。（参考資料1・II）

2. 派遣の目的

今回の巡回指導班派遣については、帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、帰国研修員の多いアフリカのケニア及びエジプトの2か国を選び、両国の帰国研修員、その所属省庁及び技術協力窓口機関を訪問した。指導班の主な目的は下記のとおりである。

- 1) 第1回開催以降各国の農林統計事業にかなりの変化があると考えられるが、本コースの研修内容が当該国の例として選ばれた両国の現状に即応しているかどうか、また、将来の本コースの研修効果の充実を図るため関係者の要望、意見を聴取する。
- 2) 研修員帰国後における我国農林情勢の変化と、今日の問題点について紹介する。
- 3) 帰国研修員が母国においてたずさわっている農林統計業務においての問題点を調査するとともに、その改善方法を助言し、適切な対処の方法について紹介する。

3. 調査団の構成

団長・総括

全国農林統計協会連合会参与

梅野 主 一

技術指導・調査

農林水産省統計情報部

企画情報課国際統計編さん係長

山下 貴

業務調整

国際協力事業団研修事業部研修第1課

安田 裕

4. 派遣国及び派遣期間

派遣国 ケニア, エジプト

派遣期間 平成元年11月25日～平成元年12月12日(18日間)

5. 行程及び指導・調査内容

日順	月 日	曜日	日 程
	平成元年(1989年)		
1	11月25日	土	東京発→英国(ロンドン)着 VS904便
2	26日	日	英国(ロンドン)発→ケニア国(ナイロビ)着 BA056便
3	27日	月	国際協力事業団ケニア事務所表敬, 大統領府人事院表敬 事務打合せ
4	28日	火	中央統計局, 国家開発省, 農業省表敬(面談)
5	29日	水	中央統計局 THIKA OFFICE (地方事務所) 視察
6	30日	木	セミナー開催 懇親会(ヒルトンホテル)
7	12月 1日	金	団内打合せ 報告書作成
8	2日	土	国際協力事業団ケニア事務所及び駐ケニア日本大使館へ報告書提出 注) ケニア政府へはケニア事務所(JICA)より提出
9	3日	日	移動日 ケニア(ナイロビ)発→西独(フランクフルト) LH581便 西独(フランクフルト)発→エジプト(カイロ)着 LH682便
10	4日	月	国際協力事業団エジプト事務所及び駐エジプト日本大使館表敬 エジプト外務省 農業省農業経済局農業経済研究所へ表敬(面談)
11	5日	火	農業省農業経済局 SIMBILILAWAIN 地方事務所視察
12	6日	水	セミナー開催 懇親会(於農業省クラブ)
13	7日	木	報告書作成 エジプト外務省から夕食の招待
14	8日	金	報告書作成
15	9日	土	農業経済研究所及び農業省訪問
16	10日	日	エジプト外務省へ報告書提出(面談), 国際協力事業団エジプト事務所へ報告
17	11日	月	エジプト(カイロ)発→フィンランド(ヘルシンキ)着 AY952便
18	12日	火	フィンランド(ヘルシンキ)発→東京(成田)着 AY914便

6. 主要面会者リスト(帰国研修員及びセミナー参加者は別掲) ケニア関係

1) 駐ケニア日本関係機関

日本大使館 2等書記官	寺 西	義 秀
国際協力事業団ケニア事務所長	熊 岸	健 治
国際協力事業団ケニア事務所次長	高 畑	恒 雄
、 、 、 参事	平 野	光 男
国際協力事業団ケニア事務所副参事	高 橋	嘉 行
、 、 、 副参事	十 郎	正 義

2) ケニア政府の関係機関

(1) 大統領府入事院

マンパワー開発局次長 Mr. Richard K. A. Siele

(2) 農業省

- 次官 William P. Mayaka
- 農場管理局次長 Isaae Kivimi
- 研修・開発局次長 Mr. George Oliver Ogold

(3) 企画・国家開発省

- 中央企画室長 Mr. Olum
- 人口センサス担当 Mr. Waculle

(4) 中央統計局

- 東ケニア調整官 Mr. Francis Musyoka Munene
- Kinbou 県地方統計事務所長 Ms. Rose N. Noara
- 地方長官 Mr. D. M. Jakaiti

7. 主要面会者リスト(帰国研修員及びセミナー参加者は別掲) エジプト関係

1) 駐エジプト日本関係機関

日本大使館 一等書記官	高 嶺	彰
国際協力事業団エジプト事務所長	飯 村	圭 司
、 、 、 参事	小 森	毅
、 、 、 副参事	岡 本	茂

2) エジプト政府の関係機関

(1) エジプト外務省

- 技術協力文化局長 Mokhies Gova

- アジア局長 Mahmoud Abul Enein
- (2) 農業省経済局
 - 統計・センサス部長 Dr. Moustafa Abd Elchariosman
 - 統計・センサス課長 Mr. Malmoud Narit
 - 農業統計部長 Mr. Mohamed Ali El Said Taha
 - 統計局研修部長 Mr. Abd EL Rahman el Dosuki
- (3) 農 業 省
 - 農業統計官 Mr. Hi LAL McTWALLY Hi LAL
 - 委員長 Dr. Wassima Moustafu Afifi
- (4) 農業省経済研究所
 - 農業統計研究部長 Dr. Afaf ABD LI AZIZ Ms
 - 農業統計研究部園芸課長 OSAMA M. Ehsindy
 - 生産部主任研究官 Dr. Ahmed Hossni checuima
 - 労働賃金部主任研究官 Dr. Shykhoun E. Mohamed
 - 農業センサス課長 Mr. Maged ElOIAarils Jswaicl Gbrali
 - 農業経済研究所副所長 Mahmoud E. I. Mansour

第Ⅱ章 帰国研修員の動向に関する調査結果（ケニア編）

1. 対象面接者（技術協力窓口及び関係機関）

大統領府人事院，農業省，企画国家開発省（中央統計局）の予定していた関係者全員と面談できた。

(1) 技術協力窓口機関

大統領府人事院

(ア) 研修員の選定方法について

- (a) 大統領府人事院が研修員募集通知を受理
- (b) ケニア政府機関（20省）の中で，どの省に最も利益をもたらすかについて検討。
- (c) 農林統計コースについては，農業省及び企画・国家開発省中央統計局に対し，詳細が通知され公募となる。
- (d) 各省による推薦者は，大統領府人事院がチェックした上で選定する。
- (e) 大統領府人事院から国際協力事業団ケニア事務所に書類が提出される。

(2) 関係機関等における農林統計に対するコメント

- (ア) 国の発展のための天然資源に乏しく，農業が主産業である。農業発展のためには，農業及び農家の実態を把握する農業統計が不可欠である。また，そのための人材育成が重要な課題となっている。
- (イ) データの収集方法を学びとることが重要であると同時に，集計，分析のためにコンピュータの利用が必要になっている。
- (ウ) 他の先進国が行っている研修としては，米国が専門研修を開催している。
- (エ) 統計職員のレベルに応じた研修（現場的なもの，専門的なもの等）が必要。

(3) 農林統計コースに対する評価と要望

- (a) 帰国研修員の活躍を高く評価。
- (b) 本コースの継続と受入枠の拡大。
- (c) コンピュータによる集計・分析に関する講義（専門コース）の新設及び研修員のレベルに応じた段階別統計コース（初級，中級，上級等）の新設。
- (d) フォローアップチームの訪問を歓迎し，新しい情報及び資料の導入をお願いする。

2. 帰国研修員の実態

国際協力事業団ケニア事務所の調査結果では，農林統計コースの帰国研修員は6名となっていたが（参考資料……Ⅲ），大統領府人事院職員管理部からの報告では，現在勤務している帰国研修員は下記の3名で，その中の Mr. Francis Wabuile と面談ができた。他の2名は地方へ栄転（地域統計指導官）し，業務多忙と遠距離のため出席できなかった。

NAME	DURATION	ORGANISATION & POSITION	ADDRESS OF ORGAN.
Dr. N.E.O. Ambitho	7/AUG/1983 - 31/OCT/1983	CENTRAL BUREAU OF STATISTICS : PRINCIPAL ECONOMIST STATISTICIAN	P.O. BOX 30266 TEL. 333970 EXT. 214 NAIROBI
MR. G. H. OLUM	18/JUL/1985 - 14/OCT/1985	NATIONAL IRRIGATION BOARD ASST. CHIEF ENGINEER	P.O. BOX 30372 Tel 722590 NAIROBI
MR. FRANCIS WABUILE	17/JUL/1987 - 13/OCT/1987	MINISTRY PLANNING & NAT. DEVELOPMENT: SENIOR ECONOMIST/STATISTICIAN	P.O. BOX 30005 TEL. 338111 NAIROBI

3. 農林統計コースに対する帰国研修員の意向

Mr Francis Wabuile (企画・国家開発省勤務)

「1987年農林統計コースを受講した。研修期間、研修科目及び水準も適当であったと思う。現地研修については非常に役立ってよかった。農林統計コースは有意義で今後も継続してほしい。職場での問題はない。フォローアップチームの訪問は継続してほしい。新しい農業情報及び資料の提供をお願いしたい。」

4. 研修の成果

農林統計コースで学んだ講義及びテキストは非常に役立っており、学校及びトレーニングセンターでの講義資料及び技術解説や報告書作成時に応用している。また、職場のスタッフ等への情報としても役立っているが、最新の情報が欲しい。

帰国後、現場職員の訓練・指導にあたる機会も多く、日本での研修の効果は大きい。

5. 国際協力事業団、農林水産省への要望

- 1) 農林統計コースの継続と受入幅の拡大
- 2) 電算システム(専門的)コースの新設
- 3) 継続的資料の提供

6. Questionnaire の分析結果

研修の成果は何に役立っていますか	研修の内容(期間水準科目)	仕事上で問題がありますか	特に関心のあった科目	本コースに対する意見	フォローアップ・チームに対する要望
1. 学校やトレーニングセンターでの講義	期間…適当	問題はない	農業統計手法の発展過程	満足	技術情報及び資料の送付
2. トレーニングコースやセミナーに	水準…適当		統計全般		技術の相談相手
3. 技術解説や報告書作成	科目…適当				
4. スタッフ等への情報提供					

第Ⅱ章 帰国研修員の動向に関する調査結果（エジプト編）

1. 対象面接者（技術協力窓口及び関係機関）

外務省、農業省、農業省経済局及び農業経済研究所の予定していた関係者全員と面談できた。

(1) 技術協力窓口

外務省技術協力及び文化振興局

(ア) 研修員の選定方法

- (a) 外務省技術協力及び文化振興局が研修員募集通知を受理
- (b) どの省に最も関係するかを検討
- (c) 農林統計コースについては農業省、農業経済局、農業経済研究所に詳細を通知する。
- (d) 研修員の選出については関係省庁にまかせており、関係省庁で検討し選出している。

(イ) 外務省技術協力及び文化振興局長の要望事項等。

- (a) 選出者及び選出方法についての報告がない。
- (b) 帰国後の活動状況及び問題点の報告がない。
- (c) フォローアップチームの今回これらの問題についての調査結果を、帰国前に報告願いたい。
- (d) 調査結果に就いて今後選出基準を定めていきたい。

(2) 関係機関等における農林統計に対するコメント

- (ア) 帰国研修員のテキストは農業経済研究所では総て研究の参考資料に利用している。
- (イ) 日本の農業経済統計にはどのような統計調査が行われているか。また、今後、畜産統計及び水産統計の充実を計画しており、これらの統計の指導をお願いしたい。
- (ウ) 他の先進国が行っている研修としては、米国がアラビア語によるアラビア諸国圏を対象とした専門研修が行われている。
- (エ) データの収集方法も学びたいが、集計、分析のためのコンピュータの利用が今後必要でコンピュータシステム研修の充実もお願いしたい。

(3) 農林統計コースに対する評価と要望

- (ア) 帰国研修員の活躍を各関係機関で高く評価。
- (イ) 本コースの継続と受入枠の拡大。
- (ウ) コンピュータによる集計・分析に関する講義（専門コース）の新設。
- (エ) フォローアップチームの定期的な訪問と新しい情報及び資料の継続的提供。

2. 帰国研修員の実態

国際協力事業団エジプト事務所の調査結果では、帰国研修員は18名(参考資料Ⅳ)で、それぞれ所属機関へ招待状がだされたとのことであったが、セミナーに出席した帰国研修員は下記の3名であった。

なお、欠席者の多かった理由は以下のようである。

- (1) 近々世界農業センサスが開始(12月16日)されるため、準備と指導のため多忙。
- (2) 農業省及び農業経済局の地方事務所へ転出し、遠距離とセンサス指導のため出席できない。
- (3) セミナー開催時間が勤務時間帯のため多忙で出席困難。

(セミナーに出席した帰国研修員の姓名及び所属先)

- (1) Mahamud Abbar Atifi 農業省農業経済局農業統計部 (1984年受講)
- (2) Osamo Mansour A. Elgindy 農業省農業経済研究所 農業統計調査研究部(1985年受講)
- (3) Mahmoud Hussin Aly 農業省官房情報及びドキュメントセンターのコンピュータ班
(1982年受講)

3. 農林統計コースに対する帰国研修員の意向

総てが有意義であったとするなかでも特に、標本調査及び農業センサスが最も役立っている。

問題点としては、適切な統計資料を得るため大規模調査を実施したいが、予算不足で現状では困難である。また、日本で学んだ講義及び現地調査等についてコンピュータによるシステム化を考えているが、予算、人材不足で困難であるとしている。

なお、農林統計コースは有意義であり今後も継続を要望していた。帰国研修員の一人より被害調査及び確率論の講義導入の要望があった。

フォローアップチームの訪問については、継続して2～3年に一回宛来訪し、最新の農業情報、資料の提供と電算システムのフォローアップを希望するとのことであった。

4. 研修の成果

農林統計コースで学んだ講義及びテキストは、①研修及びセミナー時の資料として、②現地での情報資料として、③農業統計調査結果の収集・分析のコンピュータ化に非常に役立っているとのことであった。

しかし、帰国研修員全員の希望として(特に最近では現場職員の訓練、指導の機会も多く)、日本の最新の農業情報、資料の継続的な配布を希望するとのことであった。

5. 国際協力事業団、農林水産省への要望

- (1) 「農業統計作成の手順について」の導入

調査設計→調査票の作成→調査→結果の集計→結果の分析→公表

(2) 現地研修の期間の延長

(3) 確率理論の導入

(4) 継続的な資料の提供(配布)

6. Questionnaire の分析結果

順番	研修の成果は何に役立っていますか	研修の内容 (期間, 水準, 科目)	仕事上で問題がありますか	特に関心のあった科目	本コースに対する意見	フォローアップチームに対する要望
1	研修及びセミナーの場での資料として役立っている。 現地での指導及び情報資料として役立っている。	期間…… 水準…… 科目……	問題はない	標本調査の基礎知識 農業センサス	統計解析のための知識(方法論)	技術情報及び関係資料の継続提供 2~3年に1回宛 フォローアップチームの訪問
2	現地での指導及び情報提供資料として役立っている。	期間…… 水準…… 科目……	適切な調査結果を得るための大規模調査を企画実施したいが予算がない。	生産費調査 畜産調査 物価調査	被害調査 確率論の講義の導入	技術情報及び関係資料の提供 技術の相談相手
3	その他で役立っている。農業省官房のコンピュータセンターに勤務	期間…… 水準…… 科目……	問題はない	標本調査の基礎知識 農業センサス	現地研修の期間が短い。 情報(提供)システム, ドキュメンテーション(統計資料作成)システム, 分析, デザインの概要の講義が欲しい。	技術情報及び資料の送付 技術の相談相手

第Ⅲ章 セミナーの開催（ケニア編）

1. 開催の目的

セミナーは、帰国研修員及び当該国関連業務に携わる技術者に対して、日本の最新の農業（統計）技術、情報を提供することを目的として行った。

2. セミナーの対象

帰国研修員及び関連機関の職員を対象として行った。

その内訳は、帰国研修員1名と、関連機関（大統領府人事院、農業省、企画・国家開発省中央統計局等）職員22名及び日本側（ケニア大使館、国際協力事業団ケニア事務所）4名の出席のもと開催した。（参考資料Ⅳ）

3. 日時、会場

11月30日（木曜） 10:00～17:00

ナイロビ・ヒルトンホテル

4. セミナープログラム

(1) 団長による開会の辞

(2) 映画「日本農業の現状」

(3) 日本農業の最近の特徴

(4) 農林統計組織と調査の概要

— TEA BREAK —

(5) 映画「日本の中核農家」

(6) 統計の信頼性の向上と進歩にむけて

— 昼 食 —

(7) 質疑・討論

(8) ビデオ

① 「乾燥地のかんがい農業」

② 「国際協力事業団の24時間」

(9) 懇親会開催（於ナイロビ・ヒルトンホテル 19:00～21:00）

5. 質疑応答

(1) 小規模農家に対する政府の援助・指導等について

(2) 60歳以上の農業就業率の高い理由について

- (3) 日本の林業で木材自給率の低い理由について
- (4) 輸入農産物の増加が農業構造に及ぼす影響について
- (5) 農業の機械化に対する政府の指導・補助等について
- (6) 犬・猫用食料の増加理由について
- (7) 生乳の生産調整と乳製品輸入増加の理由について
- (8) 米と野菜について
 - (ア) 水稻の収穫量調査の方法と精度について
 - (イ) 水稻の収穫量予測の方法について
 - (ウ) 野菜の生産量調査の方法について
- (9) 農産物輸入自由化と営農形態の大型化の現状について
- (10) 農産物の生産増加と高品質農業生産物との関連について

6. 配布資料

- (1) Agriculture, Forestry and Fisheries in Japan
- (2) Organization of Statistics and Survey
- (3) For Reliability and Progress
- (4) Survey for major Crop Production
- (5) 1990 World Census of Agriculture and Forestry
- (6) Introduction to Statistics and Information in Agriculture, Forestry and Fisheries

第Ⅲ章 セミナーの開催（エジプト編）

1. 開催の目的

セミナーは、帰国研修員及び当該国関連業務に携わる技術者に対して、日本の最新の農業（統計）技術、情報を提供することを目的として行った。

2. セミナーの対象

帰国研修員及び関連機関の職員を対象として行った。

その内訳は、帰国研修員3名と、関係機関（農業省、農業経済局、農業経済研究所等）職員30名と、国際協力事業団エジプト事務所職員出席のもと行った。（参考資料Ⅸ参照）

3. 日時、会場

平成元年12月6日（水曜） 10:00～14:30

カイロ農業省クラブ

4. セミナープログラム

(1) 団長による開会の辞

(2) 映画「日本農業の現状」

(3) 日本農業の最近の特徴及び農林統計組織と調査の概要

—TEA BREAK—

(4) 映画「稲の生育」

(5) 統計の信頼性の向上と進歩について

(6) ビデオ「日本の経済」

(7) 質疑・討議

懇親会（14:30～15:30） 於カイロ農業省クラブ

(8) 帰国研修員との懇談（15:30～17:00） 於カイロ農業省クラブ

5. 質疑・応答

(1) 農業の機械化等の新技術が農業分野における就業率の低下等に及ぼす影響について

(2) 農業物生産者価格の決定の方法について

(3) 日本における米の消費量低下の理由について

(4) 小規模農家の機械化の実態について

(5) 人口衛星、航空機による農作物の作付面積、収穫量予測に対する寄与について

(6) 日本の経済構造について

- (7) 外国人留学生に対する奨学金及び博士課程修了者に対する研修制度について
- (8) 農産物の流通過程における損失について

6. 配布資料

- (1) Agriculture, forestry and fisheries in Japan
- (2) Organization of statistics and survey
- (3) For Reliability and progress
- (4) Survey for major crop production
- (5) 1990 World census of agriculture and forestry
- (6) Introduction to statistics and information in agriculture, forestry and fisheries

IV 統計機構と統計作成の周辺事情

1. ケニア編

(1) 一般事情

国のほぼ中央を赤道が横切っている。海岸地帯から内陸部に入ると海拔 1,000~2,000m の草原で、広大なサバンナ地帯がウガンダ国境まで続いている。

総面積 (5,827 万ヘクタール) の大半を占める東北地帯は、ほとんど降雨をみない砂漠地帯で、農業地帯は海拔 1,000~2,500 m の南部高原地帯である。この南部高原地帯は年間を通じて気温も低く、空気は乾燥している。

季節は大別して雨季と乾季に分かれ、雨季は、3~5 月が大雨季、11 月が小雨季となっている。(参考資料……V~II)

総面積の 10.5% に当たる 611 万ヘクタールが農用地 (耕地 + 永年草地) で、耕地は総面積の僅か 4.1% に当たる 237 万ヘクタールとなっている。

農林水産業就業人口は、704 万人で、総就業人口に占める割合は、78.2% となっている。

また、農林水産業の国内総生産額に占める割合は約 27% である。

主な農産物は、コーヒー、茶、さとうきび、パイナップル、綿花、除虫菊、とうもろこし、小麦、豆類、畜産物 (牛、綿羊、小羊、豚) である。

(2) ケニアにおける農林統計組織と調査について

(ア) 農林水産関連省庁

企画・国家開発省、農業省、畜産省 (水産業を含む)、地域開発庁、研究科学技術省、環境天然資源省、公共事業省、観光事業・野生動物省、協同組合省、土地・開拓・自然計画省等が農林水産業に関連している。

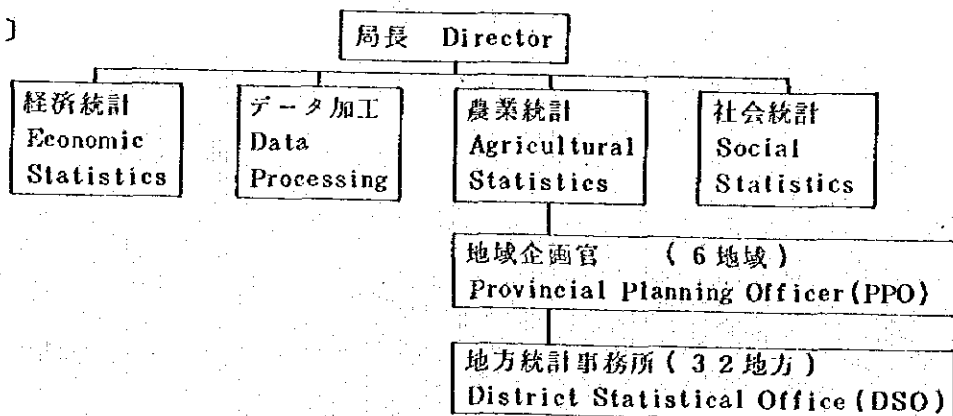
これらの中で、農林統計に関する部門を担当しているのは、主に企画・国家開発省中央統計局であり、その他の関連省庁が、補完的役割を果たしている。

(イ) 企画・国家開発省中央統計局組織図

企画・国家開発省中央統計局

(CBS: Central Bureau of Statistics, Ministry of Planning and National Development)

〔組織図〕



(9) 農業関係調査

農業関係調査には、次のようなものがある。

- (a) 大規模農場を対象とした農業センサス
- (b) 農業生産調査(面積)
- (c) 農村家計調査
- (d) 経済調査
- (e) 世帯構成調査
- (f) 農作物収穫量予測/面積調査
- (g) 市場価格調査

(3) 中央統計局 THIKA OFFICE (地方事務所) 訪問

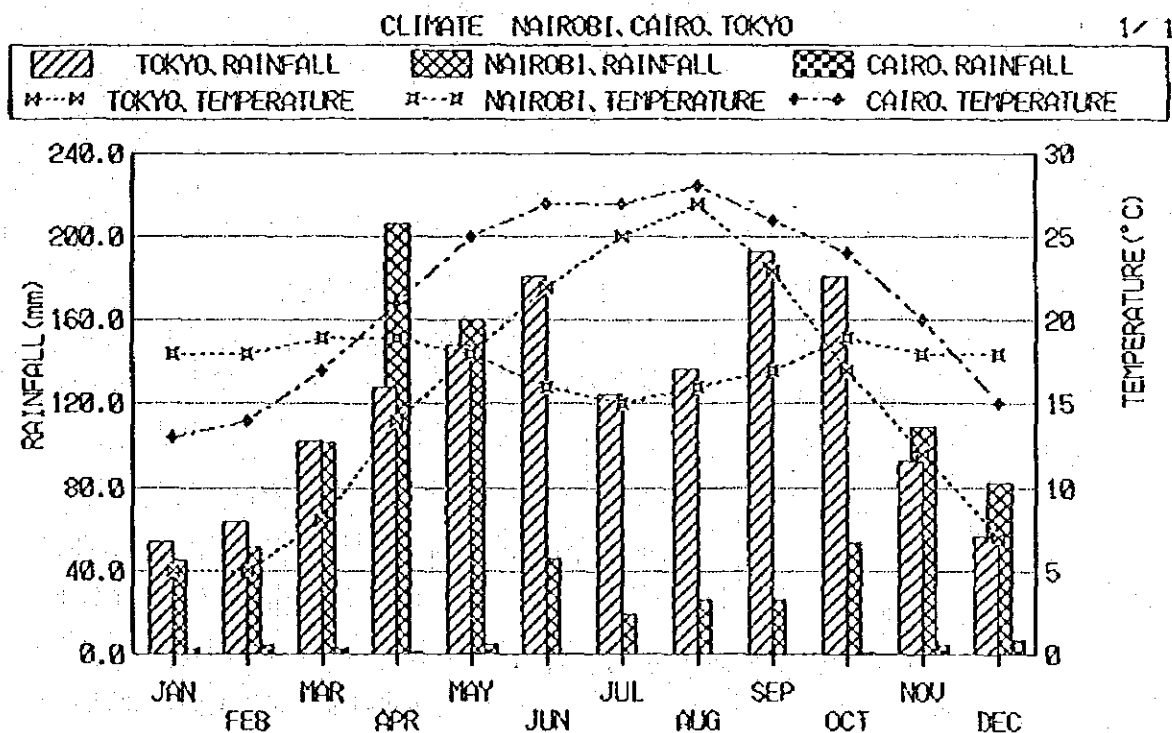
中央統計局では、District単位で地方事務所が設置されており、その1つである THIKA OFFICE 訪問の機会を得た。

THIKA OFFICE は各省庁の出先機関が一緒になった地方事務所で、地方事務所長を頭に各出先省庁の長がいる。中央統計局の出先機関は職員5名で構成され、調査職員及び調査結果の集計・分析職員と職務の分掌がなされていた。

調査は前述したように種々の調査があり、大規模農家に対する面接調査と聞き及んだが、問題点としては限られた人員ではたして十分な調査結果が得られるのか疑問に思った。

生産量統計調査では生産農家に聞き取り調査と、市場出荷量調査でその整合性の検討がされるようであるが、他のDistrictとの物流もあると考えられ理解できなかった。

帰路は THIKA の卸売市場へ案内され、物価調査の実態を見学した。(参考資料Ⅶ(1)~(4))



2. エジプト編

(1) 一般事情

アフリカ大陸の北東に位置し、北は地中海、東は紅海に面している。

国土面積は約100万km²で、日本の約2.7倍の国土を有している。しかし、耕地及び居住可能な土地は、地中海沿岸とナイル流域に限られ、全国土面積の約5%に過ぎない。(参考資料……Ⅺ)。

年間降水量は、地中海沿岸のアレキサンドリアで190mm程度で、その他の土地は殆んど降雨がなく、首都カイロで25mm程度である。カイロの年間月別気温と降水日数は次のとおりである。

単位：℃, 日

項目 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
最高気温	18	21	24	28	33	35	36	35	32	30	26	20
最低気温	8	9	11	11	17	20	21	22	20	18	14	10
降水日数	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1

耕地面積は、約253万ヘクタールで、全国土面積の約2.5%に過ぎない。農林水産業の国内総生産額に占める割合は約20%である。また、農林水産業就業人口は、約567万人で、総就業人口に占める割合は42%となっている。

農業の栽培形態には次の3種類の型がある。

1. 冬季作型(5月～11月の期間)
2. 夏季作型(3月(4月)～9月の期間)
3. ナイルデルタ作型(5月～10月(11月)の期間)

冬季作型の主要作物は、クローバー(作付率51%)、小麦(同28%)、豆類(同8%)で、その他として大麦、野菜類が栽培されている。

夏季作型の主要作物は、とうもろこし(作付率30%)、綿(同21%)、水稻(同17%)、きび、あわ(同6%)、野菜類(同10%)、さとうきび(同5%)、その他の作物としては、大豆、馬鈴薯などが栽培される。またナイルデルタ作型の主要作物は、とうもろこし(作付率51%)、野菜類(同21%)、馬鈴薯(同13%)、その他作物としては、きび、あわ類及び水稻が栽培されている。

なお、野菜類の主なもの、キャベツ、西洋カボチャ、インゲン豆、コンショウ、カリフラワー、人参、トマト、朝鮮アザミ等が栽培されている。また、永年作物としての果樹は、主なものではオレンジ、ブドウ、マンゴー、レモン、バナナ等で、他にグァバ、イチヂク、オリーブ、リンゴ、モモ、ナシ等が栽培されている。

(2) エジプトにおける農林統計組織と調査について

(a) 農業省経済局組織

農業経済局は、技術部門と管理部門に分かれ、技術部門は農業センサス部門、一般統計部門、農業統計部門及び農業金融部門より構成されている。(参考資料X)

各部門には、技術開発及び研修、統計分野のセクションがあり、特に農業統計部門では標本調査に関するデザイン及び調査追跡部門のセクションを有している。

調査方法は農業統計部門では農業センサスを除くと、その他の調査はそのほとんどが標本調査で行われているとのことであった。

農業関係調査としては、

- | | |
|------------------|----------|
| (a) 農業調査 | (g) 畜産調査 |
| (b) 農産物の生産量・面積調査 | (h) 市場調査 |
| (c) 農業経済調査 | (i) その他 |
| (d) 農産物生産費調査 | |
| (e) 農村物価調査 | |

なお、農業経済局の下部組織として、各 District 単位で地方事務所を有している。

(b) 農業経済研究所

この農業経済研究所は、西暦 1982 年までは農業経済局のなかに在ったが、その後独立した研究所である。

研究所の大きい役割は、農業収入及び食糧供給に係る研究が主体となっており、農産物の供給と需要に関する推計を行い、価格安的に寄与しているとのことであった。

また、綿、砂糖きび、小麦の作付ローテーション(輪作)の研究及び収量の高低により土地の分級を行い作物とその土地の経済効果等についての研究を行っているとのことであった。

農業経済研究所は、管理部門と技術部門よりなり、技術部門としては、11 部門(セクション)より構成され、各部門には 3~4 班(ユニット)を有し、詳細な研究調査が実施されていた。

研究所の職員は約 300 人で、職員が 220~230 人、アシスタントが 70~80 人で構成され、他に臨時職員が 100 人程度勤務しているとのことであった。

また、各班(ユニット)はそれぞれ 4~5 名の職員で構成されているとのことであった。土地改良、灌漑、農機具購入については、政府が銀行を通し融資しているとのことであった。(参考資料X)

(3) 農業省経済局 SIMBILLAWEIN 地方事務所訪問

農業省経済局センサス部長 Mr. Mahmod Nazif 及び普及担当の職員が同行した。

SIMBILLAWEIN 地方事務所では、12月16日開始される世界農業センサスを控え、調査員の指導会が実施されており、その指導を兼ねての同行であった。

地方事務所はナイルデルタに位置し、カイロより約 2 時間の農業を主とした地域であった。

(参考資料Ⅶ)

到着後、調査員に私達の紹介が行われ、その後地方事務所長(Mr. Hilal Metivally Hilad)及びNayif氏等よりセンサスについての説明が行われたが、総てアラビア語によるもので理解できなかったが、その主旨を英訳してもらったものが参考資料XⅢである。

その後SIMBILLA WEINの近くの1集落を選び、センサス調査の現地研修が行われ我々も同行した。

調査項目は、農家(数、農家の人員構成、耕地(自己保有・借地等)面積、農産物の年間生産量、家畜の保有状況、農具(農機具)の保有状況等よりなっていた。

ほぼFAOが提唱している調査項目は包含されていた。(参考資料XⅢ(1),(2))

帰路は、ナイルデルタ流域の灌漑施設、作物の作付状況及び生育状況を視察した。

ナイル流域は降雨量はほとんど期待できないので、用水は総て地下より揚水しているとのことで、畜力及び動力による揚水機が10~20ヘクタール単位で施設されていた。

地下水位は10~15mで比較的高く、一枚の圃場も約20~30アールで区切られ、圃場及び灌漑排水溝も比較的整備されていた。

なお、説明によると圃場が乾燥しすぎると塩害を生じるとのことで、たえず灌排水の必要があるとのことであった。

圃場では冬季栽培作物であるクローバー、小麦、豆類が作付されており、説明によるとクローバーが10a当たり2~3t、小麦が400~500Kgとのことであった。

(4) 農業省大臣官房情報及びドキュメントセンター訪問

セミナー終了後、帰国研修員Mr. Mahmsuel Alyより自分達が勤務する職場を是非見学してもらいたいとの要望があり、12月9日(土曜)農業経済研修所表敬の帰路訪問した。

この情報及びドキュメントセンターは、農業及び各種の情報をコンピューターを通じ(各省庁及び民間より)収集し、必要に応じて各省庁及び民間に再びコンピューターを通じ情報(加工情報)を流しているセンターであった。

また、他方では試験場も有しており、今後導入を予定している農作物の品種比較試験、栽培密度、塩害対策試験、病虫害に対する農薬試験等が行われていた。

このセンターでは、50人程度の職員が勤務しており、その約半数(20~30人)がデータベース関係業務に従事しており、Mr. Alyはコンピューター班のマネージャーとのことであった。

V 現地調査結果の総括

農林統計コース帰国研修員フォローアップチームは、平成元年11月25日より平成元年12月12日にかけて、アフリカのケニア及びエジプトの2か国において、巡回指導を行ったが、その要約は以下のとおりである。

1. 対象面接者

- 1) 訪問国の受入責任者ほか（技術協力窓口及び研修員の所属先責任者等）予定していた関係者全員と面談できた。
- 2) 帰国研修員（昭和47年以降）19名中4名と面談できた（面接率21％）。

なお、公開セミナーには両国とも、帰国研修員を含め関係機関職員が、ケニア国では22名、エジプト国では30名が参加した。

2. 訪問国における研修に対する評価と要望

- 1) 帰国研修員の活動実績は高く評価されており、特に技術的見地からの評価が高い。
- 2) 農林統計コースに期待すると同時に、今後の継続と受入幅の拡大を要望された。
- 3) その他の要望として
 - (1) 電算システム、標本調査理論、センサス理論等専門統計コースの新設
 - (2) 統計の基礎、中級、上級編等段階別統計コースの新設
- 4) 帰国研修員フォローアップチームは2～3年に1回宛訪問してもらいたい等の要望があった。

3. 帰国研修員の現況と要望

- 1) 帰国後、農業省、統計局等に在って企画・設計にあたる者、また地方にあつて現場統計職員を訓練・指導する者等多岐にわたっていたが、日本での研修の成果が大きく活かされていた。
- 2) 農林統計に関する新しい資料及び農業技術に関する資料の継続的な提供を求めている。

4. 公開セミナー開催と新しい資料の配布

日本農業の現状、農林水産統計組織と調査概要及び統計の信頼性と向上について講義を行うと共に、下記の資料を配布した。

- 1) Agriculture, Forestry and Fisheries in Japan
- 2) Organization of Statistics and Survey
- 3) For Reliability and Progress

- 4) Suruey for Major Crop Production
- 5) 1990 World Census of Agriculture and Forestry
- 6) Introduction to Statistics and Information in Agriculture, Forestry and Fisheries

なお、「今日の日本農業」、「日本の中核農家」、「日本の稲作技術」の映画と「国際協力事業団の24時間」及び「砂漠地帯における灌排水事業について」の録画を放映した。

さらに、帰国研修員たちが、現在、活動上必要としている諸問題の解決について話し合い、助言を行った。

5. このほか、Questionnair を中心に、本コースの評価、要望を聴取するとともに、訪問国の農林統計活動の実情及び帰国研修員の活動状況等を把握した。

6. 以上の結果、農林統計コースが果たしてきた効果を確認すると共に、本コースの整備、充実、発展に向けて現在行っている電算システム、標本調査の基礎理論及び農林業センサス等の講義時間延長等のカリキュラムの再検討の必要性が認められた。

VI ケニア及びエジプト政府へ提出した報告書

December 1, 1989

Dear Sir,

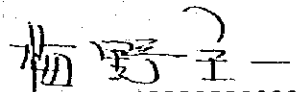
It is our great pleasure to submit to you herewith a summary report by Technical Follow-up Team for the ex-participants of the Group Training on Agricultural statistics.

Through meeting and discussions, we have received opinions and suggestions from the participants which are very useful for us to make further improvement of our training programme.

We were delighted to see ex-participants actively engaged in their respective works.

Taking this opportunity, we would like to extend our sincere thanks to all the officers concerned and ex-participants for their kind cooperation during our stay in Kenya.

Yours faithfully.



Mr. Shuichi UMENO
Leader of the Technical Follow-up Team
for Ex-participants of
group training
on Agricultural Statistics

SUMMARY REPORT BY THE FOLLOW-UP TEAM
FOR EX-PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE
ON AGRICULTURAL STATISTICS

1. Objectives

The objectives of the follow-up team is as followings:

- (1) To offer up-to-date technical informations on agricultural statistics
- (2) To evaluate the result of the training course in Japan and improve JICA's training programme.

2. Period

From November 27 1988 to December 2 1989

3. Member of Follow-up team

1) Mr. Shuichi UMENO

Councillor, Japan Association of Agriculture and Forestry Statistics

2) Mr. Takashi YAMASHITA

Chief, Foreign Affairs Statistics Compilation Section, Planning and Information Division, Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

3) Mr. Hiroshi YASUDA

Training Officer, First Training Division, Training Affairs Department,
Japan International Cooperation Agency

4. OUTLINE OF ACTIVITIES

NOVEMBER 27 (Mon) Arrive, Meeting at JICA office and Embassy of JAPAN

28 (Tue) Courtesy call - Central Bureau of Statistics,
Ministry of Planning & National
Development,
- Ministry of Agriculture

29 (Wed) Courtesy call - DPM officials
Visiting Thika office of Central Bureau of Statistics

30 (Thu) Seminar
Cocktail party

December 1 (Fri) Report to JICA office and Embassy of Japan

2 (Sat) Prepare Report and meeting within the team

3 (Sun) Leave KENYA

5. SEMINAR

Seminar was held at Hilton International Nairobi in KENYA.

Numbers of participants were 17 persons, of which Ex-participants was one.

Seminar started at 9:30 A.M. on 30 november 1989, and ended at 5:00 P.M.

programme of Seminar was following;

(1) Opening remarks from leader of the Technical follow-up Team for

Ex-participants of group training on Agricultural Statistics.

(2) Movies: The title is "JAPANESE AGRICULTURE TODAY"

(3) Lecture: by Mr. T. YAMASHITA

1) Recent characteristic in Japanese agriculture

2) Organization of statistics & survey on agriculture, forestry and
fisheries

(4) Movies: The title is "A CORE FARMER IN JAPAN"

(5) Lecture: by the team leader Mr. S. UMENO

FOR RELIABILITY AND PROGRESS

----- LUNCH TIME -----

(6) Generalizational Question & Reply

(7) VTR;

1) "Irrigation agriculture in Dry lands"

2) "24 hours of JICA"

6. DISCUSSION

Questions were mainly on recent Japanese situation in agriculture.

Items were as follows,

- (1) Governmental assistance policy to the small-scale farm households in JAPAN
- (2) The reason why people aged 60 and over engages in agriculture at high ratio.
- (3) The reason why industrial round wood self-sufficiency rate is low.
- (4) The effect for agricultural structure by increasing of imported agricultural products
- (5) Governmental policy and assistance to the mechanization in agriculture
- (6) The reason why imports of dog and cat food is increasing
- (7) The policy to scale magnification of cultivated area on the liberalization of importing agricultural products
- (8) The reason why the amount of imported dairy products have increased in spite of Government control of fresh milk production.
- (9) On the paddy rice and vegetables
 - 1) method of paddy rice production survey
 - 2) method of estimate for paddy rice production
 - 3) method of vegetable production survey
 - 4) difference between result of production survey and estimate of production
- (10) Relationship between increase of agricultural products and production of high quality and various agricultural products

7. PARTY

It was very successful and fruitful.

8. Conclusion

(1) Courtesy call and visit

The team visited

1) Organization related with training affairs and agricultural statistics in Kenya.

2) Ex-participants of training course

We met one ex-participant of the course. Other ex-participant of the course could not attend the seminar, because some of them have moved to local office, and some are in busy position.

(2) Evaluation and request to the group training course on agricultural statistics

1) Activities of ex-participants are highly reputed in Kenya

2) The course is expected to be continued and requested to increase the number of participants allotment to Kenya.

3) Most of organization related with agriculture statistics requested new training course on data analysis by computer.

4) Also these organizations requested that the training course will be divided to few classes due to the standard level of participants.

(3) Situation of ex-participants of the course and their requests

1) Most of ex-participants is in position to supervise staffs in local office of organization, and their knowledge obtained by the course in Japan are applied to their works effectively in Kenya.

2) They want to be supplied the up-date information on agricultural statistics continuously from Japan.

(4) The other side, the team could obtained the informations about the evaluation and the request for the course through the questionnaire, and observe the system on the agricultural statistics in Kenya.

And also the team studied the situation of ex-participants of the course.

(5) As a result, the team confirm the contribution of the training course on agricultural statistics in Kenya.

And following items are expected to be considered in the course management.

1) Increasing the time allotment for computer practice

2) Review of the course programme.

December 10 ,1989

Dear Sir,

It is our great pleasure to submit to you herewith a summary report by Technical Follow-up Team for the ex-participants of the Group Training on Agricultural Statistics.

Through meeting and discussions, we have received opinions and suggestions from the participants which are very useful for us to make further improvement of our training programme.

We were delighted to see ex-participants actively engaged in their respective works.

Taking this opportunity, we would like to extend our sincere thanks to all the officers concerned and ex-participants for their kind cooperation during our stay in Egypt.

Yours faithfully.

梅野 圭一

Mr. Shuichi UMENO
Leader of the Technical Follow-up Team
for Ex-participants of
Group Training
on Agricultural Statistics

SUMMARY REPORT BY THE FOLLOW-UP TEAM
FOR EX-PARTICIPANTS OF GROUP TRAINING COURSE
ON AGRICULTURAL STATISTICS

1. Objectives

The objectives of the follow-up team is as followings;

- (1) To offer up-to-date technical informations on agricultural statistics
- (2) To evaluate the result of the training course in Japan and improve JICA's training programme.

2. Period

From December 3, 1989 to December 10, 1989.

3. Member of Follow-up team

1) Mr. Shuichi UMENO

Councilor, Japan Association of Agriculture and Forestry Statistics

2) Mr. Takashi YAMASHITA

Chief, Foreign Affairs Statistics Compilation Section, Planning and Information Division, Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

3) Mr. Hiroshi YASUDA

Training Officer, First Training Division, Training Affairs Department, Japan International Cooperation Agency, Tokyo

4. OUTLINE OF ACTIVITIES

December 3 (Sun) Arrival

4 (Mon) Meeting at JICA office and Embassy of JAPAN

Courtesy Call to Ministry of Foreign Affairs,

Agricultural Economic Research Institute, Agricultural

Statistics Department, Ministry of Agriculture

5 (Tue) Visit to Agricultural Statistics Department in

Simbillawein Area, Agricultural Statistics Department,

Ministry of Agriculture

6 (Wed) Seminar at Agricultural Club

Luncheon Party, Meeting with ex-participants

7 (Tue) Preparation of Report

Dinner hosted by Ministry of Foreign Affairs

8 (Fri) Preparation of Report

9 (Sat) Visit to Agriculture Economic Research Institute,

Ministry of Agriculture

10 (Sun) Report to Ministry of Foreign Affairs

Report to JICA Office

Leave Egypt

5. SEMINAR

Seminar was held at Agriculture Club in Cairo.

Number of participants were 30 persons, of which Ex-participants of training course in Japan were three. Seminar started at 10:30 A.M. on 6 December, 1989, and ended at 2:00 P.M.

(1) Programme of Seminar

- 1) Opening remarks from leader of the Follow-up Team
- 2) Movie: The title is "JAPANESE AGRICULTURE TODAY"
- 3) Lecture: by Mr. T. Yamashita
 - 1) Recent characteristic in Japanese agriculture
 - 2) Organization of statistics & survey on agriculture, forestry and fisheries

----- Tea Break -----

- 4) Movies: The title is "GLOWING RICE IN JAPAN"
- 5) Lecture: by the team leader Mr. S. Umeno
For reliability and progress
- 6) VTR;
"Economy in Japan"
- 7) Discussion

----- LUNCHEON PARTY -----

- 8) Meeting with Ex-Participants of the Training Course

(2) DISCUSSION

Following questions are submitted by participants.

- 1) The effect of new technology (Agriculture mechanization, etc) on supply of labour force. (i.e. Does the unemployment rate increase in agriculture)
- 2) The way how to determine the cost in agricultural production (for example, one crop by one or the cost for the all crops harvested by one farm household)
- 3) The reason why the quantity of rice consumption is going down in Japan.
- 4) The present state of mechanization in small-scale farm household in Japan.
- 5) Are satellites or airplanes utilized in Japan for estimating area under crops or yield production? And is there other new technology used in this field.
- 6) On the economic structure in Japan.
- 7) The personal scholarships for foreigners and post doctorate programme in Japan.
- 8) The problems about saving agricultural products from loss and damage at farm-marketing and consumer level in Japan.

6. Meeting with Ex-Participants

The Team had a meeting with Ex-participants of training course.

We met three ex-participants of the course. Other ex-participants of the course could not attend the seminar, because some of them had moved to local office, and some were in busy position.

1) How are the ex-participants making use of the knowledge and experiences acquired through the course training in Japan.

- a. for the training and discussion in the organization they are working
- b. for the information in field site
- c. for knowledge on the computer system is applying for the agricultural statistics compilation

2) Occupation after the training in Japan

Two ex-participants remain same organization they were working before the training. One ex-participant has moved to the section of statistics of another authority, Prime Minister's Office. But this position has closed relationship with the agricultural statistics sector of Ministry of Agriculture.

3) The problems that ex-participants have encountered in performance of their official duties in their specialized field

- a. Shortage of budget hampers a promotion of large scale survey to obtain appropriate data .
- b. It is desirable to apply the knowledge of lectures and field practice in Japan to the computer system in Egypt. But in this stage, there are problems on budget and staffs.

4) General impression for the training course in Japan.

Every ex-participants are satisfied by the training in Japan.

- a. Sampling survey and agricultural census is useful and significant.
- b. Subject of damage survey and probability theory are requested to be included to the training programme.

5) Useful items in the training programme

- a. Basics of the sampling survey
- b. Agricultural census
- c. Computer system (Computerizing of the result of census)
- d. Survey on cost of production

6) Comment or request for the group training course on the agricultural statistics

- a. New subject "procedure of formation of agricultural statistics
Planning of survey - Preparation of Survey form -- survey -
- collect and ordering of data- analysis - publishment
- b. To increase the duration of field survey

7) Request to the follow-up activities

- a. Follow-up team should be dispatched every three to five year and up-to-date information of agriculture ought to be shown to the ex-participants.
- b. Technical follow-up seminar on systematization by computer is desired

7. Visit to the Agricultural Statistics Department in Simbillawein

- 1) Training of the enumerater for the agricultural census was seriously excuted by staffs in Simbillawein.
- 2) An opportunity to observe actual procedure of survey was given to the Team. The way and items are depending on the criterion of FAO.
- 3) In Japan, for World census, several items are added to acquire detailed data on situation of the agricultural service organization and rural community
- 4) We also really appreciate for the opportunity to observe field condition, irrigation facilities, and growing of crops in the Nile delta.

8. Visit to the Authorities concerned

(1) General procedure for candidate selection on the participant for the training in Japan

- 1) Ministry of foreign affairs make contact with organization which are related to the training and expected to accept some benefit from training in Japan. Those organizations are Agriculture Economic Reserch Institute and Agricultural Statistics Department in Ministry of Agriculture, etc.
- 2) The procedure or criterion to select applicant for the trainig is not informed to individual officer in related organization. High off icer is in charge of selection of those candidates.

(2) Evaluation of the training course in Japan.

- 1) It is accepted with compliment and good reputation.

2) The follow-up team is necessary, and important, if possible they hope that the follow-up team is dispatched for after-care every few years.

(3) There are training by the United States of America as an example of training conducted by the advanced country. The training by the U.S. is concentrated to specialized field. And Arabics is utilized for some of those training programmes.

(4) Demand for the training course in Japan

1) The specialized training e.g. analysis system by computer use.

2) Increase allotment number of training participants in place of reduction of duration.

3) The trainings on various levels due to the ability of each participant

9. Conclusion

- 1) Ex-participants of the training course on agricultural statistics are mostly satisfied by the training.
- 2) All member of the Team are glad and happy to confirm that ex-participants are making use the knowledge and experiences obtained in Japan in their official duties and specialized field.
- 3) Requests from ex-participants and other authorities will be informed to the Japanese organization concerned.

Ⅵ 參考資料

参考資料-I

農林統計コース国別、年度別参加実績表

	昭和	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元年	計	
〔アジア〕																									
1	インドネシア	1	2	1	1	2	2		1	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	31
2	フィリピン	1	1	2	2	2	1	1	2	2	1	1	1	2	2	1	2	1		1	1	1	1	1	29
3	タイ	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	29
4	パキスタ		2	1			1	1		1	2	1	2		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	21
5	マレーシア	2	1			1			2	2		1		1	1			1		1	1	1	1	1	16
6	スリランカ		1	1	1	1			1	2	1	1	1	1			1	1	1	1	1	1			16
7	ネパール	1	1	1		1	1		1	1	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	18
8	バングラデシュ						1	1		2		1	2		1	1	1	1	1	1	1	1			13
9	大韓民国	1	5							1						1									9
10	インド	1				1			1	1		1													5
11	ビルマ										1	1	1	1			1		1	1	1				8
12	ラオス				1		1			2													1		5
13	シンガポール	1			1																				2
14	中 国		4																		1				5
15	クメール					1		1		1															3
(南ベトナム)																									
16	ブータン		1	1									1												1
〔アフリカ・中近東〕																									
17	イ ラ ン			1		1	1	1				1				1									6
18	エジプト						1	1		1	1					2		1	1	1	1				9
19	タンザニア				1					1						1	1	1					1	1	7
20	トルコ														2		1								3
21	エチオピア				1		1							1											3
22	リベリア												1				1		1		1				4
23	ガーナ												1		1	1	1								4
24	チュニジア												1												1
25	スーダン				1											1	1	1							4
26	リビア							1																	1
27	ケニア																1	1	1	1	1				5
28	イラク																1	1	1	1	1				4
29	ヨルダン																					1			1
30	シエラレオーネ																		1						1
31	レソト																			1					1
32	ブルキナファソ																					1	1		2
33	中央アフリカ																					1	1		2
34	コートジボアール																					1	1		2
35	ニジェール																					1	1		2
(中南米)																									
36	ブラジル									1	1	1	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1		13
37	コロンビア									1															1
38	パラグアイ												1				1		1					1	4
39	ペルー													1				1							2
40	チリ													1											1
41	メキシコ													1											1
42	アルゼンチン												1	1							1	1	1		5
43	ハイチ																			1					1
44	ホンジュラス																		1						1
45	ボリビア																				1				1
46	グアテマラ																				1		1	1	3
47	ガイアナ																					1			1
計 (48)		10	19	9	10	11	9	8	10	21	13	13	16	18	14	16	19	16	16	16	16	16	14	15	309
備 考		農業統計コース										水産統計コース													

平成元年度海外集外研修「農林統計コース」日程表

研修場所 (本省・4F 海外研修室)

月	日	午		前		後			
		教	科	講	師	教	科	講	師
7	13	木	来 日						
	14	金	オリエンテーション		JICA	オリエンテーション		JICA	
	15	土							
	16	日							
	17	月	オリエンテーション		JICA	オリエンテーション		JICA	
	18	火	同 上		"	同 上		"	
	19	水	同 上		"	同 上		"	
	20	木	統計情報部長表敬・オリエンテーション		連 合 会	世界の農業問題と統計		東京農業大学	頁
	21	金	日本の農林統計の概要と組織		企画情報部 清 巳	日本の統計行政		総務庁 近 藤 芳 枝	
	22	土							
	23	日							
	24	月	カントリーレポート		講 師 有 志	カントリーレポート		講 師 有 志	
	25	火	同 上		"	同 上		"	
	26	水	同 上		"	同 上		"	

月	日	午		前		午		後	
		教	科	師	科	教	科	師	科
7	27	木	カントリーレポート	講師有志	カントリーレポート	講師有志	カントリーレポート	講師有志	
	28	金	日本農業の現状	官務調査課 大浦久宣	日本農業の現状	官務調査課 大浦久宣	日本農業の現状	官務調査課 國光發彦	
	29	土							
	30	日							
	31	月	日本における農産物流通の現状	流通情報センター 室谷武彦	農林統計業務の概要	農林統計課 藤井洋三			
8	1	火	世界農林業センサス・農産動態調査	農林統計課 高橋藤雄・重村雄治	農産動態調査	農林統計課 重村雄治			
	2	水	演習（農産調査表の作成）	農林統計課 重村雄治	演習（農産調査表の作成）	農林統計課 重村雄治			
	3	木	畜産調査	農林統計課 新井浩一	畜産調査	農林統計課 新井浩一			
	4	金	演習（畜産調査表の作成）	農林統計課 新井浩一	演習（畜産調査表の作成）	農林統計課 新井浩一			
	5	土							
	6	日							
	7	月	よりよい統計精度確立のために	関東農政局統計情報部 川崎陽一郎	現地研修準備（農産・畜産調査）	農林統計課 松山昌弘			
	8	火							
	9	水	現地研修（農産・畜産調査） （岩手・宮城県下）	農林統計課 松山昌弘	同 左	農林統計課 松山昌弘			
	10	木							
	11	金							
	12	土							
	13	日							

月	日	午		前		午		後	
		教	科	師	講	教	科	師	講
14	月	農業センサス (農家調査)	農業センサス (農家調査)	宮川弘幸	農業統計課	農業センサス (農家調査)	農業センサス (農家調査)	土屋重夫	農林統計課
15	火	農業センサス (集落調査)	農業センサス (集落調査)	千城隆	農業統計課	農業センサス (集落調査)	農業センサス (集落調査)	井千城	農林統計課
16	水	林業調査	林業調査	井隆	農林統計課	農林統計課総括質疑	農林統計課総括質疑	井三他	農林統計課
17	木	標本調査の基礎知識	標本調査の基礎知識	村浩和	システム分析室	標本調査の基礎知識	標本調査の基礎知識	村浩和	システム分析室
18	金	標本調査の基礎知識	標本調査の基礎知識	村浩和	システム分析室	標本調査の基礎知識	標本調査の基礎知識	村浩和	システム分析室
19	土								
20	日								
21	月	標本調査の基礎知識	標本調査の基礎知識	村浩和	システム分析室	標本調査の基礎知識	標本調査の基礎知識	村浩和	システム分析室
22	火	同上	同上	"	"	同上	同上	"	"
23	水	同上	同上	"	"	映画「日本の農業」他	映画「日本の農業」他	小宮山博	国際協力課
24	木	同上	同上	"	"	標本調査の基礎知識	標本調査の基礎知識	村浩和	システム分析室
25	金	同上 (総括質疑)	同上 (総括質疑)	"	"	統計解析の手法	統計解析の手法	小祐享	企画情報課
26	土								
27	日								
28	月	作物統計業務の概要	作物統計業務の概要	高木 勁	作物統計課	面積調査	面積調査	八木正房	作物統計課
29	火	面積調査	面積調査	八木正房	作物統計課	現地研修準備 (面積調査)	現地研修準備 (面積調査)	石井秀明	作物統計課
30	水	現地研修 (面積調査)	現地研修 (面積調査)	作物統計課	作物統計課	同上	同上	作物統計課	作物統計課
31	木	(長野県下)	(長野県下)	石井秀明	作物統計課			石井秀明	作物統計課

月	日	午		前		午		後	
		教	科	講	師	教	科	講	師
9	1	現地研修(面談調査) (長野県下)		作物統計課 石井秀明		同	左	作物統計課 石井秀明	
	2								
	3								
	4	現地研修とりまとめ(面談調査)		作物統計課 石井秀明		作物統計課 筒井辰美	作況調査	作物統計課 筒井辰美	
	5	作況調査		作物統計課 筒井辰美		現地研修準備(作況調査)		作物統計課 久保田英男	
	6								
	7	現地研修(作況調査) (富山県下)		作物統計課 久保田英男		同	左	作物統計課 久保田英男	
	8								
	9								
	10								
	11	現地研修とりまとめ(作況調査)		作物統計課 久保田英男		被書調査		作物統計課 齊藤孝夫	
	12	共済制度		作物統計課 上里猛彦		作物統計課総括質疑		作物統計課 高木勳也	
	13	農業経済統計業務の概要		経済統計課 小川勝		農村物価統計調査		経済統計課 森山登	
	14	農家経済調査		経済統計課 後藤晃		農家経済調査		経済統計課 後藤晃	
	15								
	16								
	17								
	18	農産物生産費調査		経済統計課 村上伸次		農産物生産費調査		経済統計課 村上伸次	

月	日	午		前		師	講
		教	科	師	師		
	19	火	経済統計課総括質疑	経済統計課 小川	勝他	水産統計課 弓	水産統計課 正司
	20	水	漁業センサス	水産統計課 飯塚	康次	水産統計課 中山	水産統計課 勝美
	21	木	水産物流通統計調査	水産統計課 梶	弘造	水産統計課 奥	水産統計課 健治
	22	金	漁業動態調査	水産統計課 杉本	健一	水産統計課 弓	水産統計課 正司
	23	土					
	24	日					
	25	月	経済統計業務の概要 映画「日本の国産」	国産統計課 丸	忠	国産統計課 丸	国産統計課 和彦
	26	火	果樹調査	国産統計課 鈴木	誠	国産統計課 下	国産統計課 正俊
	27	水	国産統計課総括質疑	国産統計課 山本	俊夫	国産統計課 坂本	国産統計課 秀則
	28	木	現地研修 (川崎市中央卸売市場北部市場)				
	29	金	農業生産指数	企画情報課 田村	修一	農林統計協会 弘	農林統計協会 登夫
	30	土					
10	1	日					
	2	月	電子計算機の利用(電子計算室見学)	電子計算室 望	勉	電子計算室 望	電子計算室 勉
	3	火	マイクロ・コンピューター演習				
	4	水	同上				
	5	木	農林水産物の貿易	国際企画課 高野	光春	国際協力課 小宮	国際協力課 小宮
	6	金	資料整理				
							エバリュエーション、閉講式

参考資料 - N

セミナー出席者名簿

	<u>NAME</u>	<u>ORGANIZATION</u>	<u>DESIGNATION</u>
1.	Mr. G. H. Olum	CBS	Deputy Chief Planning Officer
2.	Dr. N. E. O Abitho	"	Principal Planning Officer
3.	Mr. F. Wabire	"	Senior Statistical Officer
4.	Mr. J. M. Kamundi	"	"
5.	Mr. F. ⁹ Ngure	Agricultural Finance Corporation	Research and Statistical Officer
6.	Mr. J. R. Owuor	"	Planning Officer
7.	Miss. R. Mdachi	"	Assistant Statistical Officer
8.	Mrs. A. W. Njoroge	Ministry of Agriculture	Agricultural Officer (Statistics)
9.	Mr. R. A. Nyikal	"	"
10.	Professor E. O Auma	Egerton University	Agronomist
11.	Mr. T. D. Magori	"	Lecturer Agricultural Economics
12.	Mr. V. N. Mwaja	"	Lecturer Horticulture
13.	Mr. Peter Mureithi	H.C.D.A	Statistical Officer
14.	Mr. Isaack m Mukindia	"	Assistant Marketing Manager
15.	Miss. Nitheu Peter	"	Statistical Assistant
16.	Mrs. Omulokoli	JKUCAT	Lecturer Maths/ Science
17.	Mrs. Karugu	"	Lecturer Horticulture
18.	Mrs. Kahangi	"	"
19.	Mr. P. Bartilol	Ministry of Livestock	Animal Production Officer
20.	Mr. G. Anywenyi	"	"
21.	Mr. F. O. Oyoo	"	Range Management
22.	P. M. Omoni	DPM	Officer

図1-1 ケニアの概要図

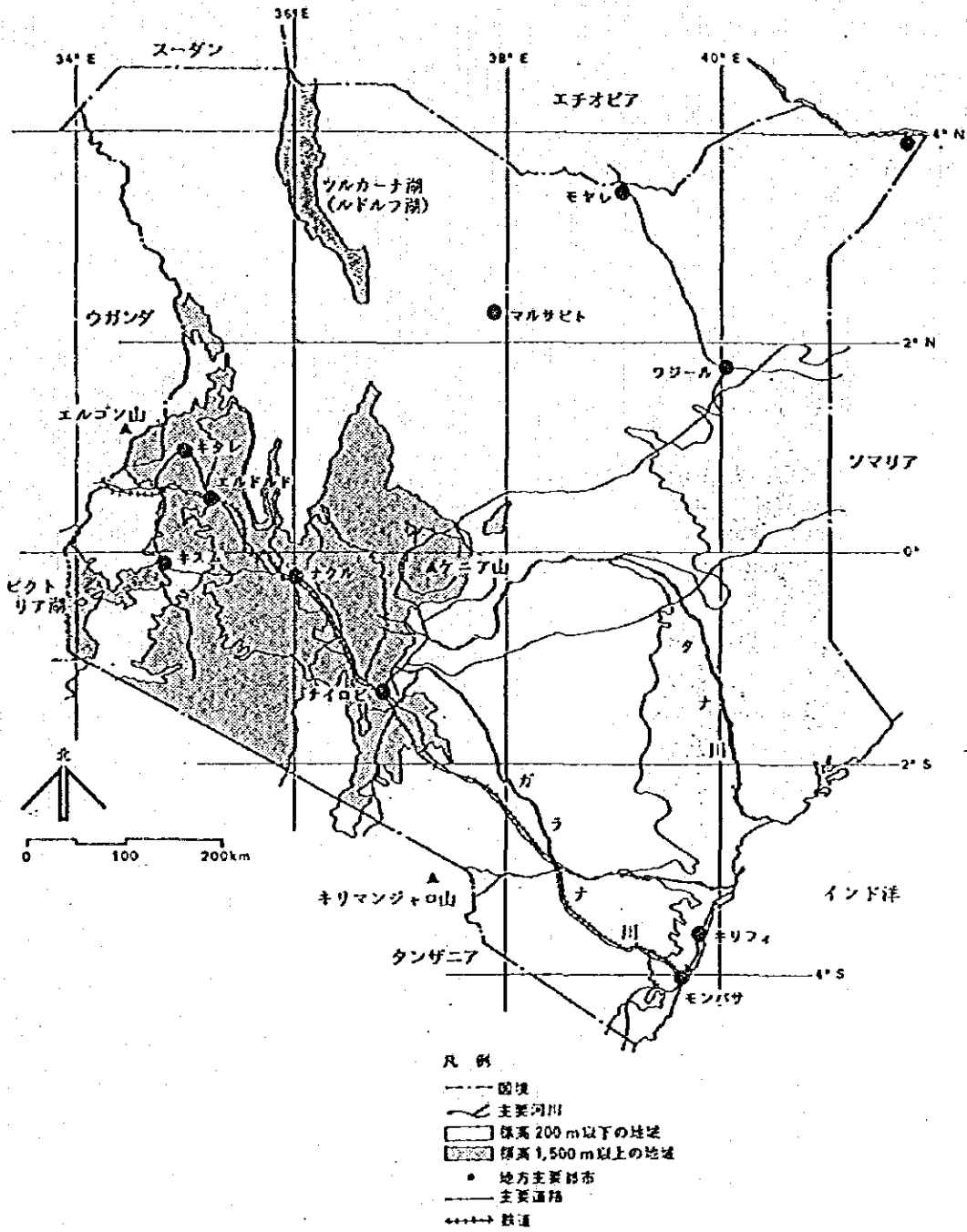


図1-2 ケニアの行政区分図

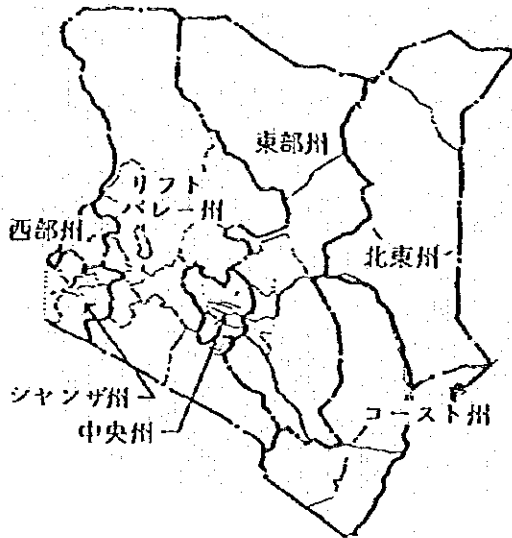
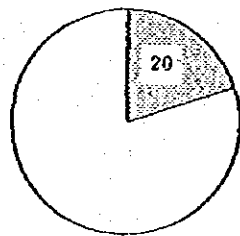


図1-3 ケニアの位置図

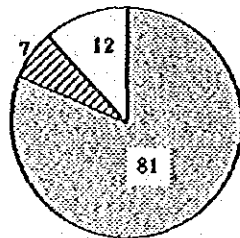


図1-4 都市化率(%)



注) 総人口に占める都市人口の比を示す。ただし都市人口の定義は国によって異なる。

図1-5 労働力比率(%)



注) 労働力とは、経済活動を行う10歳以上の人口。各部門のシェアはILOおよび世銀による推定値である。

- 農業部門 農林水産業、狩猟
- 工業部門 鉱業、製造業、建設業、電気・水道・ガス事業
- サービス部門 上記2部門以外の全ての経済活動

(出典: World Development Report 1988, World Bank)

CENTRAL BUREAU OF STATISTICS
 MINISTRY OF FINANCE AND PLANNING
 CROP FORECAST LONG/SHORT RAINS

PROVINCE _____
 DISTRICT _____
 SUPERVISOR _____
 ENUMERATOR _____
 DATE _____

CROP PLANTED DURING LONG/SHORT RAINS 19 _____

CLUSTER NO. _____ H/HOLD CHECK DIGIT _____ HOLDING AREA ACRES _____ FARM SIZE _____ STATUS REPORT _____

CROP	DID YOU PLANT THE CROP DURING THE CURRENT SEASON? 1. YES 2. NO	HAVE YOU HARVESTED THIS CROP 1. YES ALL 2. YES SOME 3. NOT YET 4. NO CROP	H A R V E S T				FARM RETENTION MONTH (ACTUAL + EXPECTED)	USUAL MONTH	QUANTITY SOLD				LOCAL TRADERS AND OTHERS						
			ACTUAL		EXPECTED				ACTUAL		EXPECTED								
			BAGS	DEBE	BAGS	DEBE			BAGS	DEBE	BAGS	DEBE							
MAIZE 01																			
BEANS 02																			
POTATOES 03																			
MILLET 04																			
SORGHUM 05																			

FARM SIZE
 1. SMALL (LESS THAN 20 ACRES)
 2. INTERMEDIATE (20-50 ACRES)
 3. LARGE (MORE THAN 50 ACRES)

STATUS REPORT
 1. INTERVIEWED
 2. NC HOLDING
 3. VACANT
 4. REFUSAL
 5. NOT AT HOME

APPENDIX I

CROP AREA SURVEY
(LONG/SHORT RAINS 198--)

District.....

Cluster

Household.....

FARMER'S ASSESSMENT OF CROP PERFORMANCE

1. Did the rains start on time? (Yes or No) _____

2. Did you plant immediately the rains started? (Yes or No) _____

3. Did you replant any of the above named crops after the first initial planting? (Yes or No) _____

If Yes specify which crops _____

4. Did you use any inputs (e.g. fertilizers, manure, chemicals, etc.)? (Yes or No) _____

If Yes specify inputs used: _____

5. How do you assess performance of your

Maize -----

Beans -----

Potatoes-----

Sorghum -----

Millet -----

given present weather conditions?

(choose one)

1. Normal harvest

2. Below normal harvest

3. Bumper harvest

4. Crop failure

5. No opinion

FORM M5178

CENTRAL BUREAU OF STATISTICS
GOVERNMENT OF KENYA
MARKET PRICES AT RETAIL LEVEL

ENUMERATOR.....

MARKET

DISTRICT

DATE

CODE

1	2	3	4	5	6	7	8
---	---	---	---	---	---	---	---

CARD

9	10
---	----

CYCLE

11	12
----	----

CROP..... VARIETY..... Supply 1 Abundant 2 Average 3 Scarce 4 Unavailable	TIME (1)	QUALITY 1=Good 2=Average 3=Poor (2)	UNIT OF SALE (3)	STANDARD UNIT 1=Kilo 2=Std Debe 3=Std (4)	CONVERSION 1 Unit of sale = Std units (5)	OBSERVED SALE			OFFICE USE					
						NO OF UNITS OF SALE (6)	TOTAL PRICE (7)	PRICE PER UNIT OF SALE (8)	PRICE PER STANDARD UNIT (9)					
		CROP	VARIETY	SUPPLY	QUALITY	STANDARD UNIT	PRICE							
		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23		
CROP..... VARIETY..... Supply 1 Abundant 2 Average 3 Scarce 4 Unavailable														
CROP..... VARIETY..... Supply 1 Abundant 2 Average 3 Scarce 4 Unavailable														
CROP..... VARIETY..... Supply 1 Abundant 2 Average 3 Scarce 4 Unavailable														
CROP..... VARIETY..... Supply 1 Abundant 2 Average 3 Scarce 4 Unavailable														

Prices should be recorded for the specified variety only. Should the enumerator need to record prices for other varieties, he must use a separate section of the form

CENTRAL BUREAU OF STATISTICS : KENYA GOVERNMENT
RURAL RETAIL PRICES

ENUMERATOR _____
SUPERVISOR _____
DISTRICT _____ MARKET _____
CARD _____ WEEK _____
DATE _____

DISTRICT _____ MARKET _____
CARD _____ WEEK _____
DATE _____

ITEM	STD UNIT	UNIT OF SALE	CODE	WEIGHT PER UNIT OF SALE					PRICE PER UNIT OF SALE
				KGLOS	GRAMS	SMS	CTS	CTS	
MAIZE FLOUR LOCAL FROM LOOSE BAG	KILO		01						
MILKING FEE FOR WHITE GRAIN	PER KILLO		02						
RICE GRADE 11 FROM LOOSE BAG	KILO		03						
HOUSE HOLD SOAP RED BAG	KILO		04						
WASHING POWDER DUSO PAPER JACK	50 grm.		05						
TOLLET SOAP SUNLIGHT MEDIUM	ONE CAKE		06						
RAZOR BLADE NACET	ONE BLADE		07						
ASPRIN TABLETS	2 TABLETS		08						
COOKING FAT KIMBO PAPER PACK	250 grm.		09						
SALT WHITE FINELY GROUND	100 grm.		10						
CURRY POWDER SHIMBA MARI 1/2 LBS	10 grm.		11						
SUGAR REFINED	KILO		12						
TEA LEAVES SIMBA	50 grm.		13						
BUSAAI/MURATINA MUNAZI	1/2 Litre		14						
BEER-TUSKER WHITE CAP	BOTTLE		15						
SODA - FANTA OR COCO-COLA	BOTTLE		16						
PARAPIN	1 Litre		17						
MATCHES	ONE BOX		18						
CIGARETTE SPORTSMAN	ONE STICK		19						
CIGARETTE 10 CENT	ONE STICK		20						
EGG	SIX EGGS		21						
MILK-FRESH FROM LOCAL FARMERS	1/2 Litre		22						
SEA FISH-SHARK (Coast Province)	KILO		23						
LAKE FISH-TILAPIA (Other Province)			24						

ITEM	STD UNIT	UNIT OF SALE	CODE	WEIGHT PER UNIT OF SALE					PRICE PER UNIT OF SALE
				KGLOS	GRAMS	SMS	CTS	CTS	
BEEF WITH BONE	ONE KILLO		13						
MATUMBO	ONE KILLO		25						
MUTTON OR GOAT MEAT	ONE KILLO		27						
PORK	ONE KILLO		28						
LIVE CHICKEN	KILO	ONE CHICKEN	30						
GREEN GRAM	KILO		31						
CHICK PEAS KUNDE	KILO		32						
FRESH PEAS SOLD IN HEAPS	KILO		33						
COOKING BANANAS GREEN	KILO		34						
ONIONS SOLD IN HEAPS	KILO		35						
SWEET BANANAS	KILO		36						
ORANGES	KILO		37						
MANGOES	KILO		38						
SWEET POTATOES	KILO		39						
CASSAVA	KILO		40						
FIREWOOD	KILO		41						
CHARCOAL	KILO		42						
BICYCLE REPAIR 1 MED. PUNCTURE	ONE PUNCTURE		43						
BUS FARE PER KM	1 PASSENGER		44						
MATATU FARE PER KM	1 PASSENGER		45						

NOTES: (1) If an item is not available at the shopping centre or market, write N.A. in the column headed UNIT OF SALES